

資料提供	
令和2年1月18日	
担当課 (担当者)	県立博物館学芸課 (大嶋)
電話	0857-26-8044

県立博物館 歴史の窓「鳥取のお酒事情」の展示を行います

当館歴史・民俗展示室「歴史の窓コーナー」の展示替えを行いますので、県民のみなさんにひろく周知するため、ぜひ取材いただきますようお願いいたします。

記

1 展示テーマ 「鳥取のお酒事情」

2 趣旨

冠婚葬祭など祝いの席に日本酒は欠かせない嗜好品です。鳥取県内には日本酒の蔵元が16蔵（酒造組合に加盟している蔵）あり、地元で根ざした酒造りが行われています。日常的に飲まれている日本酒であるが、その歴史について知る機会はあまり多くありません。

そこで、江戸から大正時代頃までの鳥取県内（とくに鳥取市域）の日本酒事情について、館蔵の酒造業関係資料や酒器などからその歴史をひもときます。

3 主催 鳥取県立博物館

4 主な展示内容

(1) 江戸時代の酒造業

鳥取藩の「清酒」の元祖は鳥取城下の町人高砂屋と言われている。この高砂屋から始まる、江戸時代の鳥取藩の酒造業について、制度的な変遷や酒造家について紹介する。また、大正年間の県下酒蔵の一覧表を展示し、その変遷を紹介する。

主な展示品

「世代勤功録」（高砂屋の由緒書、個人蔵）

「酒株根帳」（幕末、鳥取城下の酒造業者名簿、館蔵）ほか

(2) いろいろな酒器

館蔵のさまざまな酒器から酒の歴史について紹介する。

主な展示品

（池田家家紋入り）銚子・盃（江戸時代）

軍隊退役記念ほか各種徳利・盃（明治～戦前）

爛瓶（幕末～明治頃）、通徳利（中川酒造、戦前）ほか

(3) 定点写真から見る県内駅前の日本酒看板

かつて、駅前には地元の酒蔵の酒名が入った看板が必ず存在した。昭和48年から5年おきに撮影している県内の定点写真のなかから、駅前にスポットをあてて地酒看板の姿を探る。

5 展示期間 令和2年1月21日（火）～令和2年3月22日（日）

6 会場 鳥取県立博物館 歴史・民俗展示室「歴史の窓」コーナー

7 入館料 常設展示観覧料180円（団体150円）

8 問い合わせ先

県立博物館学芸課 人文担当主任学芸員 大嶋陽一

電話 0857-26-8044